

当PDF文書は上に示されている企業に関する詳細レポートのアップデート版として作成されたものです。  
詳細レポート全体につきましては[弊社ウェブサイト](#)をご覧ください。

2019年11月14日、ナノキャリア株式会社は、2020年3月期第2四半期決算を発表した。

四半期累計 (百万円)	19年3月期				20年3月期				20年3月期 (進捗率) 通期会予	
	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q		
売上高	42	218	336	497	146	294			50.5%	581
前年比	18.1%	209.0%	142.0%	91.7%	247.8%	34.7%				17.0%
売上総利益	22	177	276	417	125	239				
前年比	-1.7%	262.8%	180.7%	118.0%	462.4%	35.0%				
売上総利益率	53.1%	81.2%	82.2%	83.9%	85.8%	81.4%				
販管費	663	1,106	1,750	2,219	625	923				
前年比	-48.4%	-48.1%	-63.5%	-60.0%	-5.7%	-16.5%				
売上高販管費比率	-	-	-	-	-	-				
営業利益	-641	-928	-1,473	-1,802	-499	-684			-	-1,520
前年比	-	-	-	-	-	-				-
営業利益率	-	-	-	-	-	-				-
経常利益	-636	-911	-1,461	-1,774	-540	-734			-	-1,536
前年比	-	-	-	-	-	-				-
経常利益率	-	-	-	-	-	-				-
四半期純利益	-637	-910	-1,460	-1,809	-446	-897			-	-1,450
前年比	-	-	-	-	-	-				-
四半期利益率	-	-	-	-	-	-				-

  

四半期 (百万円)	19年3月期				20年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	42	176	118	161	146	147		
前年比	18.1%	403.5%	72.8%	33.7%	247.8%	-16.2%		
売上総利益	22	155	99	141	125	114		
前年比	-1.7%	492.6%	99.9%	51.5%	462.4%	-26.6%		
売上総利益率	53.1%	88.0%	84.1%	87.4%	85.8%	77.0%		
販管費	663	443	644	469	625	298		
前年比	-48.4%	-47.6%	-75.8%	-37.2%	-5.7%	-32.7%		
売上高販管費比率	-	-	-	-	-	-		
営業利益	-641	-288	-545	-329	-499	-184		
前年比	-	-	-	-	-	-		
営業利益率	-	-	-	-	-	-		
経常利益	-636	-275	-549	-314	-540	-194		
前年比	-	-	-	-	-	-		
経常利益率	-	-	-	-	-	-		
四半期純利益	-637	-273	-550	-348	-446	-450		
前年比	-	-	-	-	-	-		
四半期利益率	-	-	-	-	-	-		

出所：会社データよりSR社作成

\*表の数値が会社資料とは異なる場合があるが、四捨五入により生じた相違であることに留意。

\*会社予想は直近の値。

\*前年比が1000%を超える場合は-として表示。

### 販売費及び一般管理費の内訳

四半期累計 (百万円)	19年3月期				20年3月期			
	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q
研究開発費	532	879	1,424	1,793	492	695		
前年比	-53.5%	-52.5%	-67.4%	-64.0%	-7.6%	-21.0%		
研究開発費を除く販管費	131	226	325	426	133	228		
前年比	-6.6%	-18.2%	-22.5%	-24.3%	1.6%	0.8%		

  

四半期 (百万円)	19年3月期				20年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
研究開発費	532	347	545	369	492	203		
前年比	-53.5%	-51.0%	-78.4%	-38.9%	-7.6%	-41.5%		
研究開発費を除く販管費	131	95	99	101	133	95		
前年比	-6.6%	-30.1%	-30.8%	-29.7%	1.6%	-0.4%		

出所：会社データよりSR社作成

\*表の数値が会社資料とは異なる場合があるが、四捨五入により生じた相違であることに留意。

## 2020年3月期第2四半期累計期間（上期）実績

- ▷ 売上高：294百万円（前年同期比34.7%増）
- ▷ 営業損失：684百万円（前年同期は営業損失928百万円）
- ▷ 経常損失：734百万円（前年同期は経常損失911百万円）
- ▷ 四半期純損失：897百万円（前年同期は四半期純損失910百万円）

売上高は、開発マイルストーン収入、化粧品材料供給収入、化粧品売上等により増収となった。営業利益以下の各利益は、増収効果に加え販売費及び一般管理費が923百万円（前年同期比16.5%減）となったことで増益となった。販売費及び一般管理費のうち、研究開発費は695百万円（同21.0%減）となった。

## 主要パイプラインの現況

### シスプラチンミセル（NC-6004）

ライセンス先であるOrient Europharma Co. Ltd.（以下、OEP社）と共に、日本を含むアジア地域で膀胱がんを対象にゲムシタピン単独投与とNC-6004及びゲムシタピン併用投与の2群比較の第III相臨床試験を実施している。2019年4月に統計学的に解析可能な患者症例数に達したことから、患者登録を完了し、生存調査を継続している。

2018年7月、OEPと頭頸部がんを対象とした、欧米地域における開発に関するライセンス契約を締結した。現在、NC-6004と免疫チェックポイント阻害剤「キイトルーダ®」との併用による国際共同臨床試験として展開している。米国食品医薬品局（FDA）および欧州地域の規制当局への治験許可申請（CTA）を提出し受理が完了し、第II相臨床試験として2019年7月に投与を開始した。

### エビルピシンミセル（NC-6300）

米国で軟部肉腫を対象に第I/II相臨床試験を実施している。対象疾患として第I相パート試験で有効性が示唆された軟部肉腫の一種である血管肉腫にターゲットを絞り、有効性及び安全性を確認する拡大試験（expansion cohort）の実施を決定し、2019年10月に投与を開始した。同剤はFDAよりオーファンドラッグの指定を受けている。

### パクリタキセルミセル（NK105）

日本を含むアジア地域を対象としたライセンス先である日本化薬株式会社（東証1部4272）から、2018年2月に、乳がんを対象に第II相臨床試験を開始した旨が発表されている。

### 遺伝子治療薬「VB-111」

2017年11月にVascular Biogenics Ltd.（イスラエル、以下VBL）から国内の開発および販売権に関するライセンスを受けた遺伝子治療薬「VB-111」について、同社が米国を中心にプラチナ耐性卵巣がんの第III相臨床試験を実施している。当第4四半期に予定している同試験の中間解析結果を踏まえ、日本国内における開発方針を検討する予定である。

また、VBLにより実施済みの再発悪性神経膠芽腫（rGBM）を対象とする第III相臨床試験の結果を踏まえ、新たに医師主導による第II相臨床試験に関する治験許可申請（IND）が行われ、2019年11月に米国FDAより承認された旨、VBL社が発表した。さらに、VBLは消化器がんを対象にした免疫チェックポイント阻害剤との併用による米国国立がん研究所主導の臨床試験を実施する計画を発表した。

## 耳鼻科領域における新医薬品等の開発候補品 (ENT103)

セオリアファーマ株式会社との間で共同開発を行っている耳鼻科領域における新医薬品等の開発候補品 (ENT103) については、国内において中耳炎を対象とした第III相臨床試験を実施しており、2019年5月に投与を開始した。同剤は短期間で製造販売承認を取得し、製造から販売までの一貫体制による医薬品の早期提供を目指す。

## Acti-PRP (血球細胞分離機)

2019年4月、株式会社エイオンインターナショナルから「Acti-PRP (血球細胞分離機)」の国内販売権を取得した。多血小板血漿 (PRP) は細胞の成長を促す豊富な成長因子を含み、局所に注入することで組織の修復などを促す。PRPを用いた治療は整形外科領域などで行われていたが、同社は婦人科領域における不妊治療への応用として、産婦人科PRP研究会の会員施設に対し「Acti-PRP」を販売し、あわせて臨床研究を実施している。再生医療分野にも着手し、国内初の新規事業として展開する。

## 新規開発パイプライン

同社独自の先進基盤技術である抗体/薬物結合型ミセル「ADCM (Antibody/Drug-Conjugated Micelle)」を次世代型DDS医薬品技術として開発を推進している。薬物を内包しセンサーとなる抗体を結合したActive型ミセル化ナノ粒子は標的とする細胞へのターゲティング性能を高めることが期待されている。

また、技術進化として新規センサーの検討に向けた共同研究なども実施しており、ADCMの最適化やさらなる発展を目指している。JCRファーマ株式会社と脳内デリバリー創薬に関する共同研究契約を締結し、同社のADCM技術や、JCRファーマ社が有する脳内に薬剤を届けるための独自技術であるJ-Brain Cargo® (血液脳関門通過技術) など、両社が持つ技術や知見を融合し、革新的な脳内デリバリー医薬品の実現を目指した共同研究を推進している。

## 事業開発の状況

2019年5月、主要パイプラインであるNC-6004の推進において、OEPとの協力体制を確保し業務提携内容の拡充を図るために、OEPの100%子会社であるCyntec Co., Ltd.へ同社普通株式705,800株を割り当てる第三者割当増資を行った。

また、2019年4月、株式会社エイオンインターナショナルとの間で「Acti-PRP」の国内販売代理店契約を締結し、販売を開始した。

## 化粧品事業の状況

アルビオン社との共同開発製品であるスカルプトータルケア製品「Depth」のインターネット販売及び美容室でのカウンセリング販売を行っている。大手百貨店や化粧品専門店の他、全国の美容室へ取扱い店舗を拡大するとともに、インターネット販売においてはECサイト、SNSやメールマガジン等を活用したオムニチャネル化を推進している。

アルビオン社が販売する美容液エクラフチュール及び薬用美白美容液エクシアALホワイトニングイマキュレートエッセンスIDD用の原材料を供給している。

また、化粧品開発における皮膚浸透性の研究から、皮膚科領域における医薬品開発の可能性を見いだしており、今後、皮膚科領域での医薬品にも応用展開を目指す。

このリサーチメモは、掲載企業の[最新版レポート](#)にも掲載されています。

株式会社シェアードリサーチは今までにない画期的な形で日本企業の基本データや分析レポートのプラットフォーム提供を目指しています。さらに、徹底した分析のもとに顧客企業のレポートを掲載し随時更新しています。

### ディスクレーム

本レポートは、情報提供のみを目的としております。投資に関する意見や判断を提供するものでも、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。SR Inc.は、本レポートに記載されたデータの信憑性や解釈については、明示された場合と黙示の場合の両方につき、一切の保証を行わないものとします。SR Inc.は本レポートの使用により発生した損害について一切の責任を負いません。

本レポートの著作権、ならびに本レポートとその他Shared Researchレポートの派生品の作成および利用についての権利は、SR Inc.に帰属します。本レポートは、個人目的の使用においては複製および修正が許されていますが、配布・転送その他の利用は本レポートの著作権侵害に該当し、固く禁じられています。SR Inc.の役員および従業員は、SR Inc.の調査レポートで対象としている企業の発行する有価証券に関して何らかの取引を行っており、または将来行う可能性があります。そのため、SR Inc.の役員および従業員は、該当企業に対し、本レポートの客観性に影響を与える利害を有する可能性があることにご留意ください。

### 金融商品取引法に基づく表示

本レポートの対象となる企業への投資または同企業が発行する有価証券への投資についての判断につながる意見が本レポートに含まれている場合、その意見は、同企業からSR Inc.への対価の支払と引き換えに盛り込まれたものであるか、同企業とSR Inc.の間に存在する当該対価の受け取りについての約束に基づいたものです。

### 連絡先

株式会社シェアードリサーチ / Shared Research Inc.  
東京都文京区千駄木3-31-12  
HP: <https://sharedresearch.jp>  
TEL : (03)5834-8787  
Email: [info@sharedresearch.jp](mailto:info@sharedresearch.jp)